

環境取組実績報告書

2008



T-Tech
テイ・エステック株式会社

環境マネジメント推進室

■	TOPメッセージ	2
■	基本姿勢 環境宣言	3
■	2010年への取組みの考え方	4
■	年次目標と実績	5
■	環境マネジメント	
	1) 環境マネジメント活動	6
	2) 環境マネジメント体制	7
	3) 環境監査	8
	4) 環境ISO取組みトピックス	9
	5) 環境リスクマネジメント	10
	6) 2007年度環境関連投資実績と削減効果見込み	12
■	環境保全活動実績	
	1) 製品開発領域	13
	2) 生産領域	14
	3) 購買・物流領域	17
■	2007年度社会活動	18
■	2007年度各事業所別関連データ	19
■	会社概要	21

報告書の対象範囲

期間：2007年度まで

組織：ティ・エス テック国内全事業所（6事業所）と国内子会社（2社）、
関連会社（1社）及び、海外の一部事業所を報告対象としております。

グローバル情報については、北米、中国、アジア地域の5生産事業所を対象としております。

なお、当実績報告書はティ・エス テック独自の基準に沿って、編集致しました。

たゆまぬ環境への取組みにより「喜ばれる企業」を目指す

代表取締役社長

古明地 利雄



現在、私たちが直面している地球規模での環境問題は、日々深刻さを増し、今年の洞爺湖サミットでも最重要課題として議論されております。

同時に企業運営においても、環境問題への対応が最重要課題の一つとして取り上げられ、多くの企業がその取組みを強化しております。

そのような状況の中、テイ・エス テックはグループを挙げて、企業理念である全てのステークホルダーに「喜ばれる企業」となるため、環境基本方針のもと、当社の事業活動に関わる全ての環境保全活動に対し、従来より積極的な取組みを展開してまいりました。

開発領域では、「環境にやさしい製品開発と造り」をテーマに、自動車燃費向上によるCO₂排出削減を目的とした製品の軽量化への取組み及びリサイクル性向上、規制化学物質の全廃等、環境対応技術の開発を継続的に進め、国内外の製品に適宜適用しております。また、生産領域では、国内外の関係会社を含むグローバルな展開として環境マネジメントシステム（ISO14001）の取得を積極的に推進してまいりました。

特に国内では、ISO14001の全社統合による更なる高効率運用体制の構築を進めるとともに、温室効果ガス排出量削減、ゼロエミッション及び規制化学物質使用ゼロ化を継続的に取組んでまいりました。

環境問題への取組みは企業としての社会的責任であり、それらを実行することは、世界11カ国で事業を展開するテイ・エス テック グループの従業員一人ひとりの役割であると認識しております。

今後も、地球環境の保全のため、環境への取組みを積極的に推進してまいります。

今後の環境経営について

統括環境責任者

常務取締役 管理本部長

根本 昭



当社は、自動車用シートをはじめとする自動車内装品を世界11カ国からお客様へ提供しており、その事業活動から発生する環境負荷を軽減するために、各拠点で自主目標を掲げ環境問題に取り組んでおります。

環境経営の基本として最も大切なことは各国の各事業所がグローバルレベルの環境目標を認識し環境マネジメントシステムをより深く掘り下げ熟成させることです。

今後は、環境影響に対する情報を世界全拠点からスピーディーかつタイムリーに入手・分析するシステムを構築し、問題点をテイ・エステックグループの共通課題と認識した上で、その対応策を速やかに決定し、環境目標の達成に向けて対処して行くことが急務であると考えます。

本環境実績報告書は、テイ・エス テックの環境保全活動実績を皆様にご報告することを目的に本年度より発行いたしました。

皆様におかれましては、ご一読を賜り、ご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

環境基本方針

《 方針 》

わたしたちは常に地球環境と生物を汚染から守る為、法の遵守の基に製造業として無限の改善と進化に挑戦し、環境に優しいトップ企業を目指す。

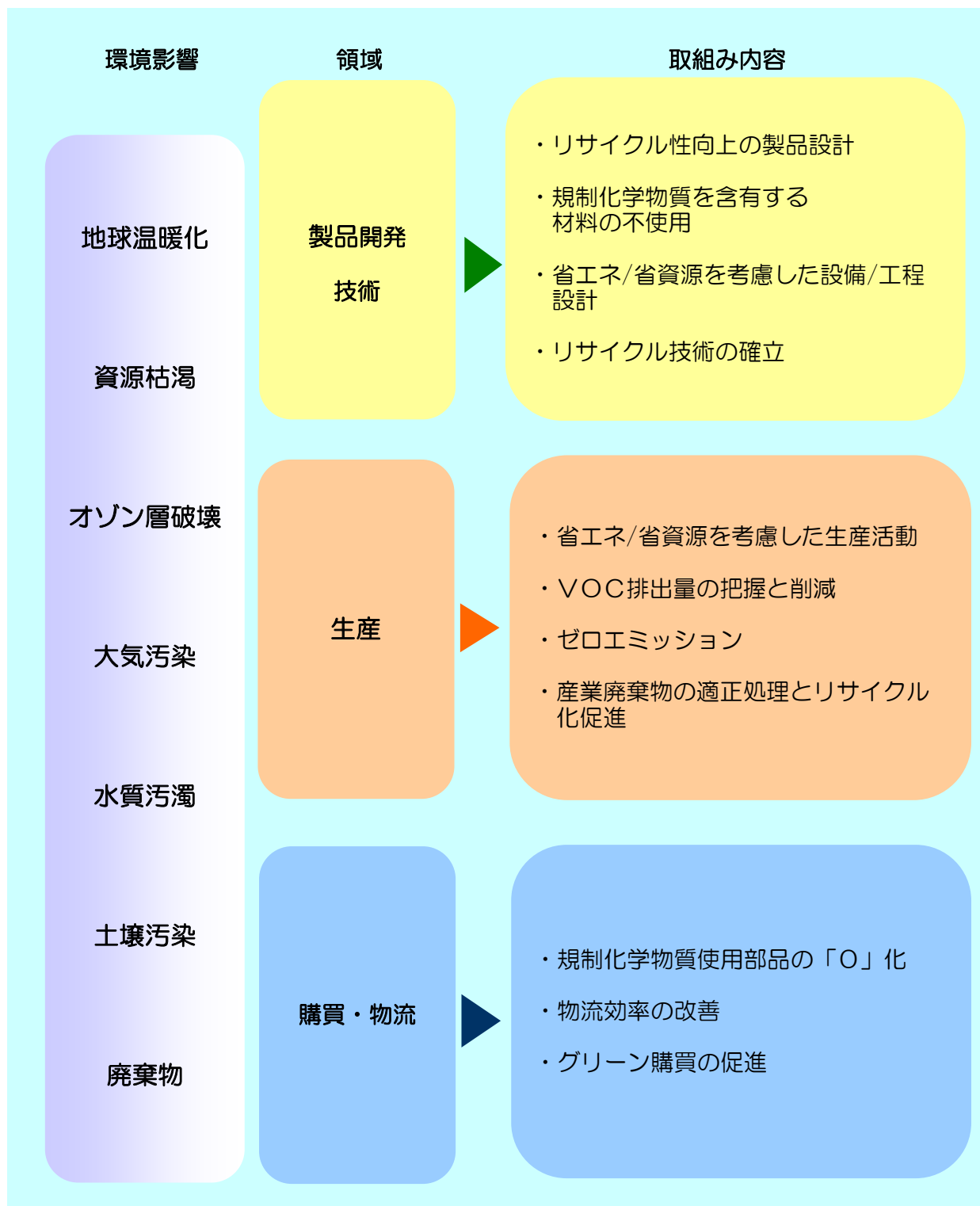
《 行動指針 》

- 1、商品の開発、生産、販売、廃棄の各段階においてライフサイクルアセスメント（LCA）の視点に立って廃棄物、汚染物質の最小化と適切な処理を図る。
- 2、商品の開発、生産及びすべての事業活動で材料の有効利用と、資源、エネルギーの節約に努める。
- 3、社会の一員として人の健康の維持と地球環境の保全、及び地域社会との共生に努力すべく、積極的に行動する。
- 4、テイ・エス テックグループとのより良い理解に向けて、積極的な情報の啓発と共有化を行う。
- 5、海外事業活動において、当該国の環境基準の遵守はもとより、環境対策技術の海外移転を積極的に推進する。

1998年4月1日 制定

事業活動による環境影響と取組み内容（2008～2010年）

テイ・エス テックは2008年から2010年までの事業活動から発生する環境負荷の削減に向け、全事業所全部門において、さらなる環境保全活動に取り組んでまいります。



2007年度環境取組み計画と実績/2008年度計画

重点取組み項目		施策	2007年度目標	2007年度実績	達成度	2008年度計画
製品開発・技術領域	環境に優しい製品開発と工程設計	・製品軽量化推進	・シートフレームの構造変更による軽量化	・シートフレーム構造変更による軽量化の実現（新機種に随時適用）	○	・環境に優しい製品開発及び工程設計の継続・拡大
		・生産効率向上への取組み	・CO ₂ 排出量 2000年比 4.6%削減 ・高効率設備導入	・CO ₂ 排出量 2000年比 6.1%増加 ・空圧設備の効率化 ・空調設備のタイマー導入による効率化	×※1 ○	・生産効率改善の継続、拡大
生産領域	生産活動における環境負荷低減	・ゼロエミッション（廃棄物直接埋立て「O」化）	・ゼロエミッション継続	・継続実施	○	・ゼロエミッション継続維持
		・廃棄物リサイクル化向上	・廃棄オイル「O」化（ろ過装置導入によるリサイクル化）	・潤滑油の廃棄オイル「O」化実現	○	・廃棄物削減とリサイクル率向上
			・廃プラスチックのマテリアル化	・樹脂成形品と表皮端材マテリアル化継続	○	
		・水使用量の削減	・2006年度比 3%削減	・2006年度比 4.3%削減	○	・水使用量削減の継続拡大
		・VOC※2排出量の削減	・2006年度比 40%削減	・2006年度比 49%削減 （工程改善による削減）	○	・VOC排出量削減の継続拡大
		環境マネジメントの周知	・社内、取引先等への環境マネジメント教育	・国内4工場での環境教育	・国内4工場での環境教育実施	○
購買・物流領域	グリーン購買の促進	・規制化学物質非含有製品購入促進	・規制化学物質使用「O」化	・規制化学物質使用「O」化実現	○	・規制化学物質使用「O」化の継続監視強化
		・製品物流形態の見直し	・物流荷姿の改善による廃棄物削減	・通箱化による廃棄物削減実現	○	・物流効率改善の継続拡大
		・省エネルギー機器、エコマーク付事務用品の購入	・購入の促進	・省エネトップランナー機器の購入促進 ・エコマーク用品の購入推進	○	・グリーン購買の促進拡大

※1.2007年度CO₂排出量増加原因：2000年比の生産量が8%増加しました。それに伴い、CO₂排出量も増加し、また、シート製造工程の変化による、エネルギー使用量の増加が加わったためです。

なお、未達成の原因分析、対応を含めて、今後ともCO₂削減に継続的に努力してまいります。

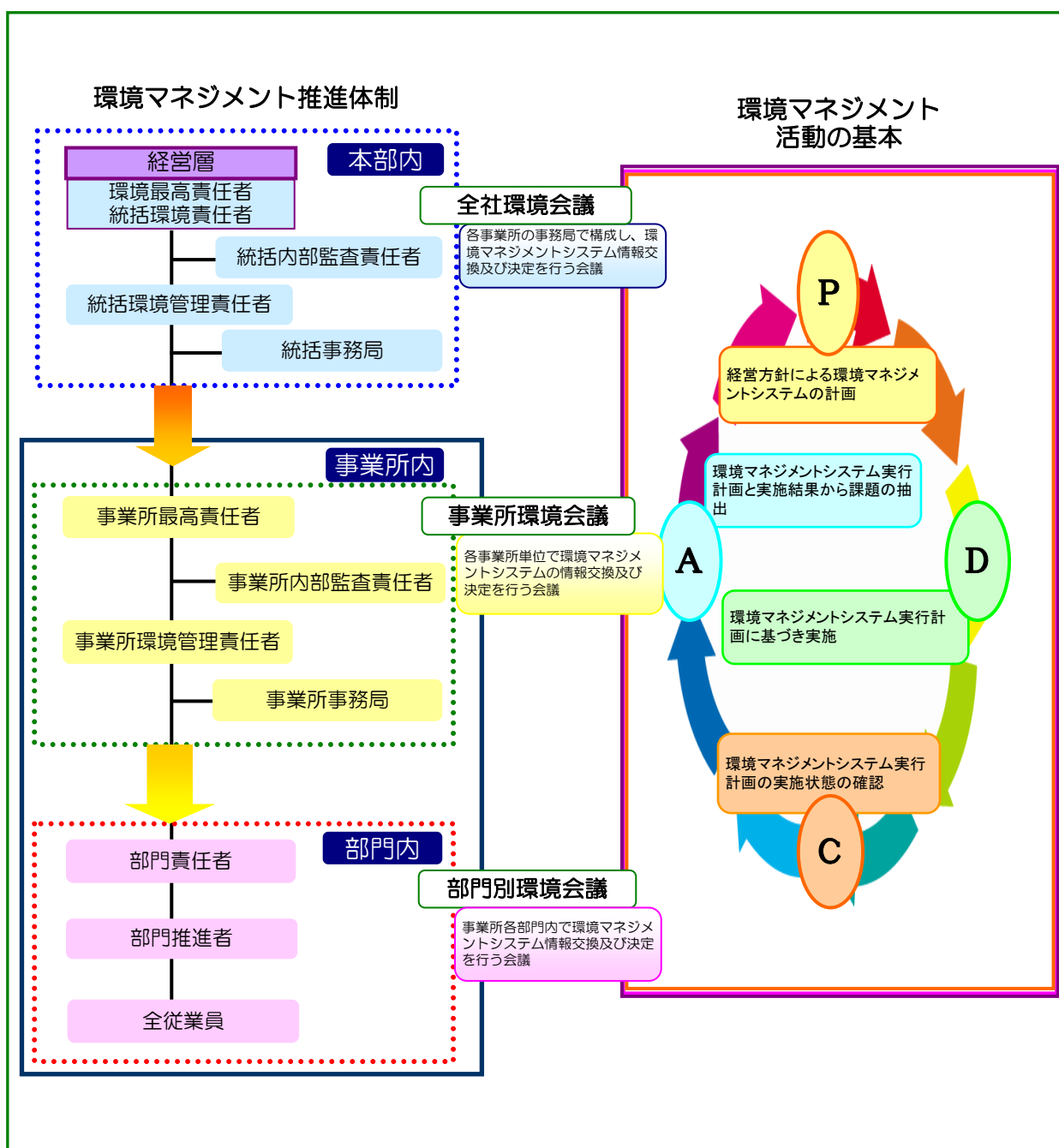
※2.VOC（Volatile Organic Compound）：揮発性有機化合物、蒸発しやすく、大気中で気体となる有機化合物の総称です。

1) 環境マネジメント活動

ティ・エス テックにおける環境取組み計画の基本は経営方針を具現化する中期事業計画の中で決定され、各実行部門は中期事業計画に基づきそれぞれの詳細実行計画を策定し活動します。活動実績は経営層により評価・承認され、その結果を次期の事業計画に反映するというPDCAサイクルに基づいた継続的な活動として展開しております。

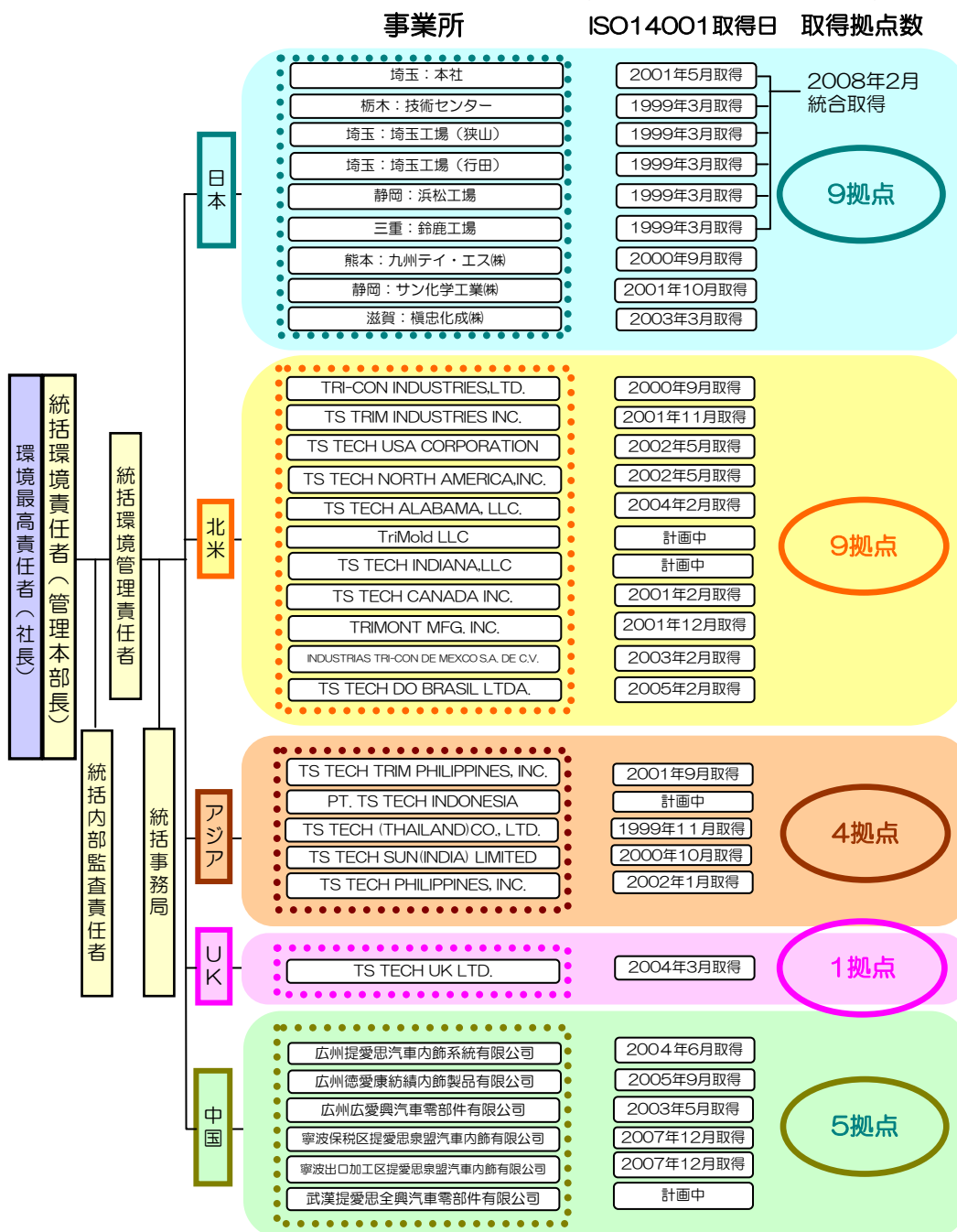
計画の推進には、各事業所内・外で働く取引先の方々にも環境マネジメントの対象者として、積極的に取組んでいただいております。

これらは「全員が自分達の仕事として環境課題に取り組んでいく」という考え方に基づいたものです。



2) 環境マネジメント体制

2007年度末現在の
環境マネジメントシステム認証取得状況



グローバル展開構築に向け、ISO14001の世界全事業所認証取得を目指しております。

～ 今後に向けてのグローバル体制強化 ～

ティ・エス テックは社会から存在を期待される「喜ばれる企業」になるという経営理念を掲げ、企業活動を展開してまいりました。その活動領域は現在、世界11カ国33法人55拠点到及び、生産活動もグローバルに拡大しております。こうした中、地球環境保全是グループ全体の課題であるとの考えのもと、グローバルでの環境管理体制の一元化を図り、世界で発生する環境問題やそれに付随する環境情報をいち早くグループ全体で共有化し、グループ全体の環境問題への理解を促すとともに、専門委員会等の体制を整え積極的な対応を図ってまいりたいと考えております。

3) 環境監査

第三者監査

2007年度の第三者監査（審査）が2008年1月15日～17日、本社を中心に全事業所を対象に実施されました。今回の第三者監査は、環境マネジメントシステム統合後初めて実施されました。監査ポイントとして、経営層からの環境方針が、全ての事業所、各部門まで確実にブレイクダウンされているかどうか、また環境マネジメントシステムが十分に機能しているかどうかということが重点的に確認されました。総評としては、環境マネジメントシステムの統合の狙いは十分に果たされており、今後更に環境施策の効果的な展開が期待できるとのことでした。

マネジメントレビュー

2007年度の経営層に対する環境取組み実績報告を、2007年12月21日に統括環境管理責任者及び統括事務局が出席し、本社で行いました。

実績報告は統括環境管理責任者より行われ、経営層からは環境マネジメントの更なるレベルアップを図り環境保全活動を全員参加のもとに推進するようとのコメントがありました。

内部監査

2007年度の内部監査を2007年11月15日より全事業所を対象として実施致しました。今回の監査は、全事業所統合の経緯より、事業所間（クロス）監査を行った結果、これまでの内部監査では発見することが出来なかった環境マネジメントシステムの不備が顕在化されました。これは、監査員へのスキルアップ教育の実施によるスキル向上と、今回の内部監査で初めて実施した事業所間クロス監査による責任感高揚の成果と考えております。

現在はそれらの不備に対する対策は全て完了しており、テイ・エス テックの環境マネジメントシステムのレベルアップにつなげることが出来ました。

環境教育

テイ・エス テックは全ての社員を対象に、環境マネジメントシステムの熟知、環境意識高揚、重要性の認識を目的に環境教育を実施しています。



内部監査員教育



一般社員教育



マネジメント層教育

4) 環境ISO取組みトピックス

国内

ISO 14001 全社統合キックオフ大会

2007年12月13日、本社において「ISO14001全社統合キックオフ大会」が開催されました。

当社は、事業所ごとにISO14001を取得していますが、全社を統合した形での取得を目指すこととなりました。

このキックオフ大会は、全社統合化のスタートを切るべく、全事業所の環境管理責任者および事務局が集まり、開催されました。



統括環境責任者をはじめ各事業所の環境管理責任者・統括事務局と全事業所環境管理責任者、全事業所事務局

ISO 14001 全社統合認証される

2008年2月19日、当社は環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」を改めて取得致しました。

今回のISO14001取得は、これまで事業所ごとに取得していたISO14001を全社統合したものであります。



現地審査の後、ヒアリング審査を受ける各事業所推進メンバーたち

取得を目指し、昨年末より環境マネジメント推進室をはじめ、全事業所の環境管理責任者および事務局が中心となって進めていたもので、4日間にわたる現地審査により正式認証されました。

海外

寧波保税区提愛思泉盟汽車内飾有限公司 寧波出口加工区提愛思泉盟汽車内飾有限公司

ISO14001 認証される

中国寧波の上記2社ではISO14001の認証取得推進活動に取り組んできました。2007年12月19日に本審査が行われ、認証取得証書が交付されました。



推進メンバー

5) 環境リスクマネジメント

～ 化学物質品質保証の確立について ～

ヨーロッパを中心とした、化学物質に関する取り決め^{※1}に対応するために、テイ・エス テックは規制化学物質の管理の徹底を図るために、分析機器を埼玉工場（行田）に導入しました。

取引先より納品された部品の抜取り検査を実施し、使用が禁止されている化学物質が含まれていないかを確認しており、問題発生はありませんでした。



蛍光X線分析機

6価クロム（Cr6+）分析機

※1：EU廃車指令（ELV指令）の法規制による使用禁止物質の指定。

～ 法令遵守について ～

土壤水質汚染防止

テイ・エス テックの鈴鹿・浜松・埼玉の各工場では、日常の生産活動により生じる可能性のある土壌・地下水汚染の防止に対し、自主的に観測井戸を設置し、定期的なモニタリングにより敷地外への流出がない事を確認しており、問題発生はありませんでした。



溶剤ドラム缶転倒時
緊急事態対応訓練の様子

テイ・エス テック全事業所では、事業活動から環境への影響の発生が予測される緊急事態に対し、従業員の対応スキルを向上させ、環境影響を最少限にとどめるために定期的に訓練を実施しています。

また、生産活動で使用する設備・機械は毎日定期的に点検を実施し、異常の早期発見、早期保全に努め環境への影響と生産面に対する影響への未然防止に努めています。

騒音防止対策

テイ・エス テック全事業所では、事業活動から生じる「音」に対して、敷地境界上で定期的に騒音測定を行っています。事業所立地条件により騒音に対する法基準値が異なるため、環境保全活動の中で、法順守のための取組みを実施しております。



駐車場騒音対策
(全面アスファルト舗装の駐車場)

国内の一部の事業所では社員及び来客者用の駐車場が敷地外にあり、住宅地と接しているところがあります。自動車の駐車場への入出庫時に発生するタイヤ音と砂ぼこりの防止を目的として駐車場に全面アスファルト舗装を施し、騒音及び砂ぼこりの発生の未然防止を行いました。

廃棄物の適正管理

各事業所の事業活動から発生する廃棄物の管理を適正に行うために、法で定める手順に従い廃棄物処理業者と運搬、処理に関する契約を結び、処理方法を明確にしております。

また、定期的に中間処理及び最終処理場での現場確認を行い、契約内容に対して違反がない事を確認しており、問題発生はありませんでした。

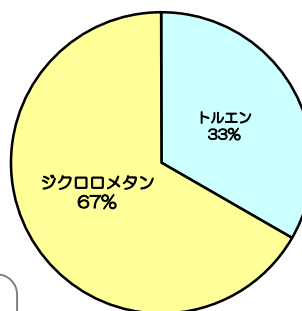
化学物質の管理

テイ・エス テックは事業活動の中で使用される化学物質（特に人体への影響や生態系に有害な恐れがある物質）に対し、従来から削減への取組みを強化しています。PRTR制度※1を順守し化学物質の適格な管理を今後も継続的に推進していきます。

PRTR対象物質排出量（全事業所合計）
(2007年度 単位：t)

トルエン	14
ジクロロメタン	28

PRTR対象物質排出比率



※1.PRTR制度(経済産業省・環境省)
Pollutant Release and Transfer Registerの略称であり、環境汚染物質排出移動登録制度とも呼ばれています。この制度は、有害な恐れのある多種多様な化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを国が把握し、集計し、公表する仕組みです。

6) 2007年度環境関連投資実績と削減効果見込み

環境関連投資実績とCO2削減効果見込み

事業所	施策	投資額	削減量
		(百万円)	(t-CO2)
技術センター	電気式空調機への変更(重油⇒電気)	130	227
埼玉工場(行田)	空調設備のタイマー導入	17	267
	照明電力削減		
	フォークリフト(プロパン⇒バッテリー)		
	空調機インバーター化(3台)		
	第5変電所閉鎖		
浜松工場	空調設備のインバーター化	18	14
鈴鹿工場	電気式空調機への変更(灯油⇒電気)	172	536
	空圧設備の効率改善		
	変圧器更新		
	成形機冷却設備のインバーター化		
	暖房空調時の効率改善(熱溜り解消)		
	太陽光発電街路灯		
全社	その他環境改善活動	—	10
合計		337	1,054

環境関連投資実績とVOC削減効果見込み

事業所	施策	投資額	削減量
		(百万円)	(t)
埼玉工場(行田)	アルカリ電解水洗浄機への変更 (ジクロロメタン⇒アルカリ電解水)	31	64

※削減量は、施策立案時の計算値

各事業領域における環境保全活動の実績

1) 製品開発領域

テイ・エス テックは従来より「環境に優しい製品開発と作り」をテーマに環境負荷の低減に取り組んでおり、社会的使命である環境負荷の低減を図るため、CO2排出量削減を目的とした製品の軽量化、リサイクル性向上、規制化学物質の全廃等、環境対応技術の開発を継続的に進めてきました。現在は、自動車の燃費向上に有効な製品の軽量化を重要な取組み施策の一つとして捉えており、特に軽量シートフレームの製品化等に注力しています。

また、リサイクル関連技術として

- 1) リサイクル性向上の製品設計
 - 2) 材料、部品の端材のリサイクル化
 - 3) 廃棄自動車部品のリサイクル化
- 等があります。

四輪車用製品

テイ・エス テックは2006年までにシートフレームの構造変更による軽量化を実現し、新機種シートに順次採用し地球環境に貢献しております。またシートクッション素材の軽量化にも取り組んでおります。

シートフレーム構造の変更によるシート重量の軽量化と人間工学に基づいた快適で疲れにくいシートの実現



※2006年CIVICシートより順次新機種シートに軽量化フレームを採用

シートクッション素材のポリエステル繊維化によるリサイクル性向上と軽量化



(2007年東京モーターショーに参考出品)

二輪車用製品

一枚物のシート表皮に縫い目や柄などを転写によって再現する工法を開発。本物の縫製のようなリアルなステッチがデザインの自由度を高め、外観品質を向上。転写により、縫製や柄加工の工程が省け、加工工程から発生するCO2の削減に貢献しています。新機種に順次適用していきます。



その他の製品群

自動車及び、オートバイ用シートを中心とした製品以外に、医療用（透析）チェアなどの製造においても、製造工程から発生するCO2削減、省資源化など四輪車用製品開発で蓄えた、技術を役立てております。



透析用チェア

2) 生産領域

テイ・エス テックは地球環境と生物を汚染から守るため、法の順守はもとより、製造業として無限の改善と進化に挑戦し、環境に優しいトップ企業を目指しております。

- ①生産活動により生ずる廃棄物、汚染物質の最少化と適切な処理に努める。
- ②生産活動において材料の有効活用と資源、エネルギーの節約に努める。

上記の考え方により、私たちは、「お客様に喜ばれる製品作り」を世界各地で行っています。

(1) 省エネルギー活動の実績

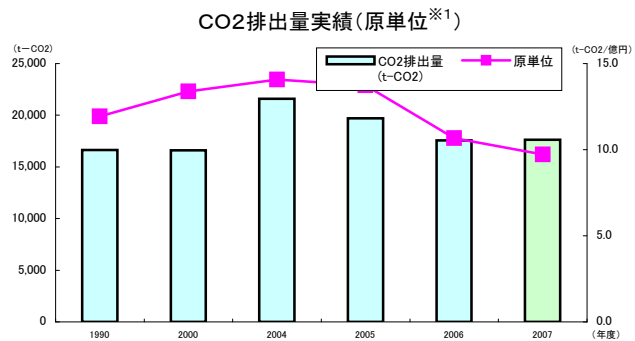
CO2排出量実績

2007年度CO2排出量は、2000年度比6.1%増加しました。なお、前年（2006年）比としてはほぼ同量です。増加の原因は、生産量の増加（8%増）に伴う、CO2排出量の増加です。また、シート製造工程の変化によるエネルギー使用量の増加が加わったためです。

なお、未達成の原因分析、対応を含めて、今後ともCO2削減に継続的に努力してまいります。

【CO2削減施策】

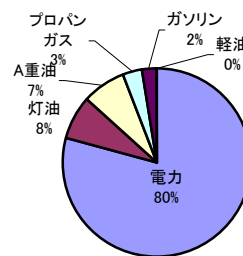
- ・電気式空調機への変更
（重油、灯油⇒電気式）
- ・空圧設備の効率改善
- ・成形機冷却設備のインバーター化
- ・空調設備のタイマー導入 等



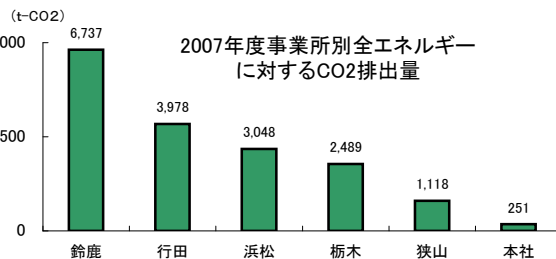
※1.原単位：CO2排出量を売上高で割った値

- ・2007年度エネルギー別使用量割合
エネルギー別の使用量割合は、電力が約80%を占めております。
エネルギー使用量全体の削減活動に努めています。

2007年度エネルギー別使用量割合



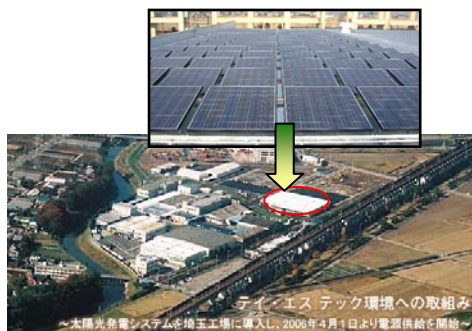
- ・事業所別CO2排出量
鈴鹿工場と埼玉（行田）工場のCO2排出量が多く、この2工場のCO2排出量削減を優先的に取組みました。



CO2削減取組み事例

① クリーンエネルギーの導入（埼玉工場（行田））

テイ・エス テックは2006年にクリーンエネルギーとして太陽光発電システムを埼玉工場に導入し、高い生産性を発揮しながら、地域社会や地球環境へも配慮した「世界のモデル工場」として操業をしております。



太陽電池モジュールが120枚、約200㎡で年間17,947Kwhのクリーンエネルギーを供給しています。

② 空調機のエネルギー置換（鈴鹿工場）

CO2排出量の大きい灯油式空調機を電気式空調機に変更したことにより、CO2排出量の大幅な削減に成功しました。

灯油式空調機



268 t - CO2
の削減



電気式空調機



③ 空調機のコンピュータ管理によるCO2削減（鈴鹿工場）

電気使用量の上限値を設定するために工場にある全ての空調機をコンピュータに接続し、上限値をオーバーした電力を強制的に制御・カットすることにより、CO2の排出量削減を行っております。

空調機運転時間 →



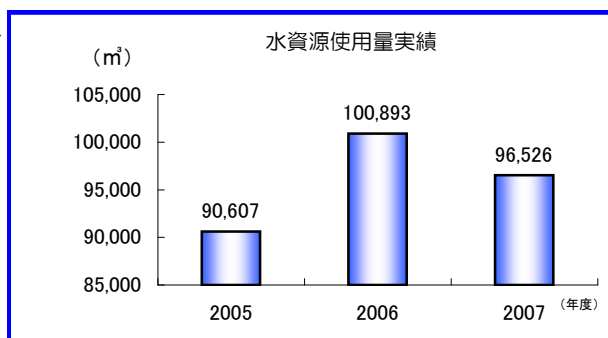
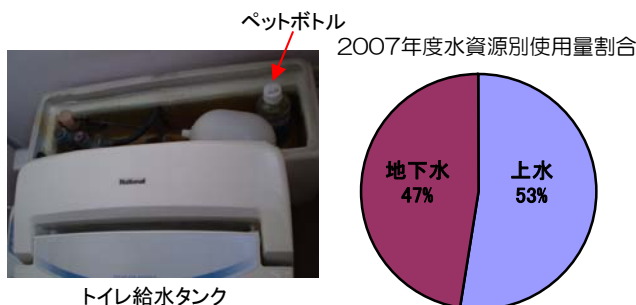
設定値をオーバーした時点でコントローラが制御され、空調機のコンプレッサを最長3分間順次停止させ設定値内の電力量を守りきります。

部は制御されコンプレッサが停止している時間（最長 3分間）

(2) 省資源活動の実績

水資源使用量削減事例

テイ・エス テックがお客様にお届けする製品にはプラスチック部品が数多くあります。プラスチック部品を加工する際、金型を冷却するため、大量の水を使用しますが、この冷却水を無駄にしないよう「循環方式」を取入れております。また、手洗い、トイレ等で使用する生活水についても、給水バルブを絞ったり、トイレ給水タンクにペットボトルを入れる等、水の使用量を削減してきました。

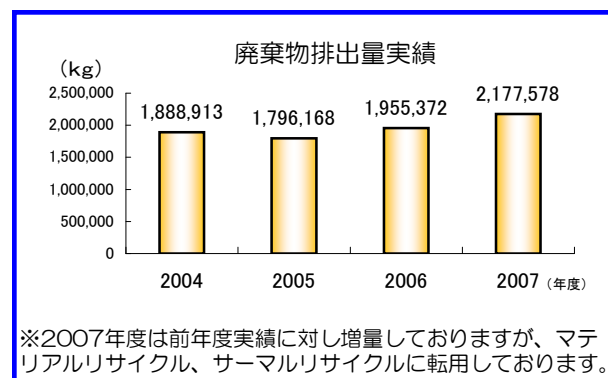


廃棄物排出量削減事例

プラスチック成形機の潤滑油ろ過装置導入により、潤滑油の廃棄量が「0」になりました。



設備に取付けることで潤滑油は随時ろ過される



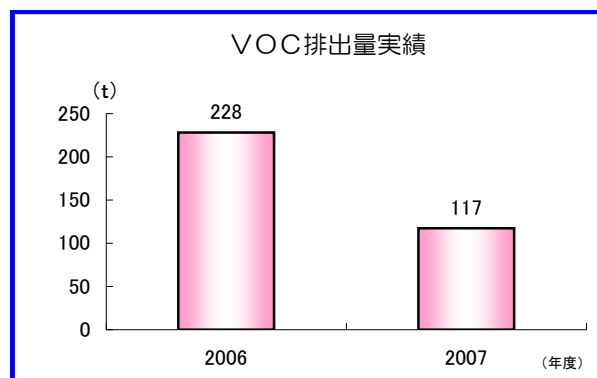
(3) 大気汚染対策事例

VOC使用量削減事例

テイ・エス テックは生産工程の中でVOCを金型の洗浄や部品の洗浄などに使用しております。生産量の増加によりVOCの使用量も増加しますが、洗浄工程にアルカリ電解水を取入れるなどVOCの使用量を削減しました。



アルカリ電解水洗浄機



3) 購買・物流領域

テイ・エス テックは製品を構成する部品を取引先より購入しております。これらの購入部品は、環境に配慮し法律に適合しています。

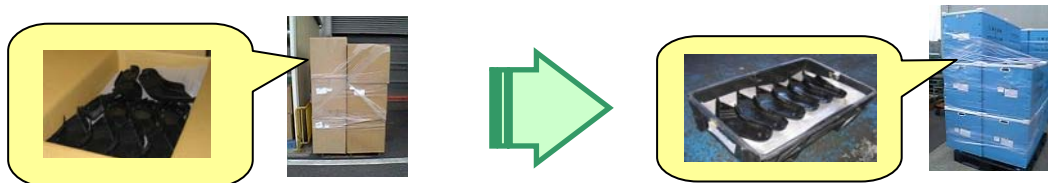
また、社内で使用する事務用品についても、エコマーク付商品を積極的に購入しております。物流領域においては、製品や部品を輸送するために発生するエネルギーや、倉庫等の物流負荷を最小限にするよう努めております。

購買改善事例

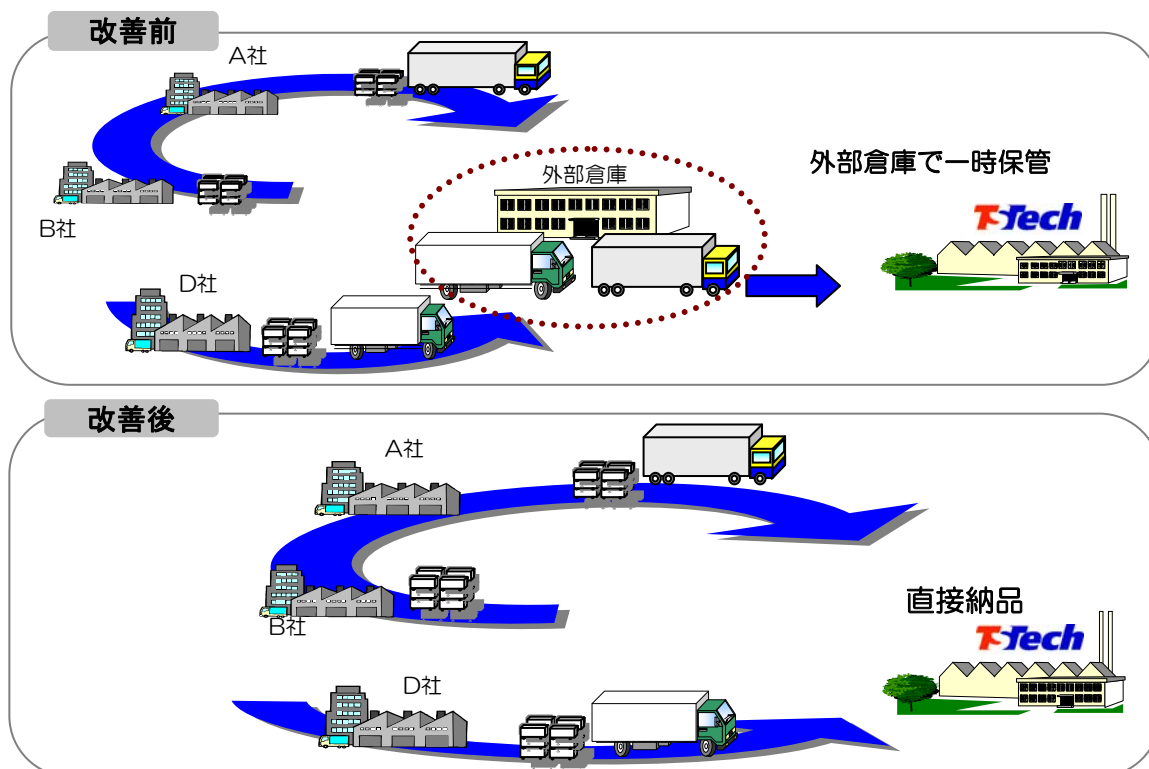
- ① EU法規制に基づく規制化学物質を基点に世界標準となってきた含有製品の購入禁止と使用化学物質調査の実施
- ② OA機器、電気製品の「省エネ推奨機器」最優先購入
- ③ 事務用品は「エコマーク」付商品の購入
- ④ 設備機器はトップランナー製品の購入

物流改善事例

- ① 段ボール箱納入からポリ箱による通箱とし、段ボール資源の枯渇防止と廃棄物の削減



- ② 外部倉庫の敷地内取入れによる、納品頻度削減によるCO2の削減



事業所レポート実例 私たちの 地域社会貢献活動

＜地域との共存共生＞

地域に密着した社会貢献活動を通じ、地域(社会)との共生の深化に努めてまいりました。2007年度は「地域社会と融合した共生活動の深化」、「従業員の環境意識の更なる高揚」を目標に活動し、(地域に密着した)イベントの参加・協賛は68件となりました。

当社の理念である「喜ばれる企業」の実践として、今後もこの活動の輪の一層の拡大に取り組んでまいります。

事業所別活動

本社

本社地区では、朝霞駅から本社までの通勤経路のゴミ拾い活動を2回/年実施しています。また、防災訓練や献血活動にも地域の方々に参加を呼びかけております。正面玄関にはAEDを設置し地域の方々にも利用できるようPRをしております。



年2回おこなっている通勤経路付近の清掃活動



地域の方も参加しての献血活動

技術センター

技術センターでは毎年、地元の小・中学校の交通安全指導や、県道沿いへの花植え(花いっぱい運動)や除草、ゴミ拾い活動、地元観光祭への出展、各種催物への協賛など積極的に行っています。



昨年参加した『さくら交通開所』の開所式



『花いっぱい運動』は年4回開催

埼玉工場



毎月行っている地域美化活動は市報でも紹介されました



地域主催のバスケットボール大会に審判員(日本公認)を派遣

埼玉工場では地域の美化活動として、工場周辺の清掃活動を定期的実施しております。

また、バスケットボール部は埼玉県内でも有数の強力チームです。チームより地域のバスケットボール大会への審判員の派遣を行っております。

浜松工場



北浜東小学校の児童を招いた工場見学会



年3回行われる市の交通安全街頭活動に参加

浜松工場では、20年以上前から地元小学校と幼稚園の子供たちを工場に招き、工場見学会を行い、「ものづくり」の紹介と環境への取組みの説明をしております。

また、地元で行われる催しの際には、駐車場を開放するなど、地元の方々に喜ばれる活動を推進しております。

鈴鹿工場

鈴鹿工場では毎年、環境に対する「意識改革・モラルアップ」及び地域社会との共生を高めるため、クリーン作戦(工場・関連駐車場周辺のゴミ、空缶拾い)を行っております。



クリーン作戦

<国内事業所>

本社

- 所在地(住所):埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号
- TEL:048-462-1121
- FAX:048-465-0403
- 主要業務:本社機能

●水質

項目	単位	※規制値	測定実績
水素イオン濃度	PH	5.0~9.0	8.4
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	600	34
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	600	64

※規制値は自主規制値です

技術センター

- 所在地(住所):栃木県塩谷郡高根沢町太田118番地1
- TEL:028-676-1234
- FAX:028-676-1449
- 主要業務:R&D開発、営業、購買、品質管理

●水質

項目	単位	規制値	測定実績
水素イオン濃度	PH	6.0~8.4	6.8
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	10	7.0
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	25	7.0

製造・型形技術開発、金型製造加工、安全評価試験

埼玉工場(行田)

- 所在地(住所):埼玉県行田市野3600番地
- TEL:048-559-1321
- FAX:048-559-2700
- 主要業務:四輪車用シート、ドアトリム、ステアリング製造
オプションパーツ、医療・介護関連商品製造

●水質

項目	単位	規制値	測定実績
水素イオン濃度	PH	5.8~8.6	7.1
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	25	1.0
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	60	5.0

●PRT R対象物質

(単位: kg)

物質名	取扱量	大気排出量	移動量
シクロロメタン	24,600	17,000	7,600
トルエン	8,000	6,000	2,000

埼玉工場(狭山)

- 所在地(住所):埼玉県川越市南台1丁目10番2号
- TEL:049-243-1555
- FAX:049-243-1558
- 主要業務:ドアトリム、ルーフトリム製造

●水質

項目	単位	規制値	測定実績
水素イオン濃度	PH	5.0~9.0	7.4
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	600	77
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	600	31

浜松工場

- 所在地(住所):静岡県浜松市浜北区善地358番地
- TEL:053-587-0611
- FAX:053-587-0610
- 主要業務:四輪車用シート、二輪車用シート
建設機械シート、ドアトリム、ステアリング製造

●水質

項目	単位	規制値	測定実績
水素イオン濃度	PH	5.8~8.6	8.2
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	160	35
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	200	17

●PRT R対象物質

(単位: kg)

物質名	取扱量	大気排出量	移動量
シクロロメタン	7,700	7,700	0
トリレンジイソシアネート (TDI)	53,000	0	0

鈴鹿工場

- 所在地(住所):三重県鈴鹿市木田町60番地
- TEL:059-382-1331
- FAX:059-382-9300
- 主要業務:四輪車用シート、ドアトリム製造

●水質

項目	単位	規制値	測定実績
水素イオン濃度	PH	5.8~8.6	6.1
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	25	2.3
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	90	9.4

●PRT R対象物質

(単位: kg)

物質名	取扱量	大気排出量	移動量
シクロロメタン	2,900	2,900	0
トルエン	10,300	7,900	2,400

2007年度各事業所別関連データ

<国内子会社・関連会社>

九州テイ・エス(株) 熊本工場

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	8,192,544

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	297

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	73,581

同 大分工場

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	7,220,604

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	169

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	17,983

サン化学工業(株)

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	2,757,128

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	57

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	6,848

楨忠化成(株)※1

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	2,137,330

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	467

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	1,905

※1.関連会社

<海外子会社>

北米地域

TS TECH USA CORPORATION

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	11,720,240

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	881

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	12,038

TS TECH ALABAMA, LLC.

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	7,952,595

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	300

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	22,756

TS TECH CANADA INC.

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	4,832,949

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	190

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	2,628

中国地域

広州提愛思汽車内飾系統有限公司

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	4,827,560

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	154

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	95,305

アジア地域

PT. TS TECH INDONESIA

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	1,121,184

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	24

水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	8,990

TS TECH (THAILAND) CO., LTD.

エネルギー使用量 (年間)

エネルギー項目	エネルギー使用量 (kwh)
電力	3,624,176

廃棄物排出量 (年間)

廃棄物項目	廃棄物排出量 (t)
全排出量	579

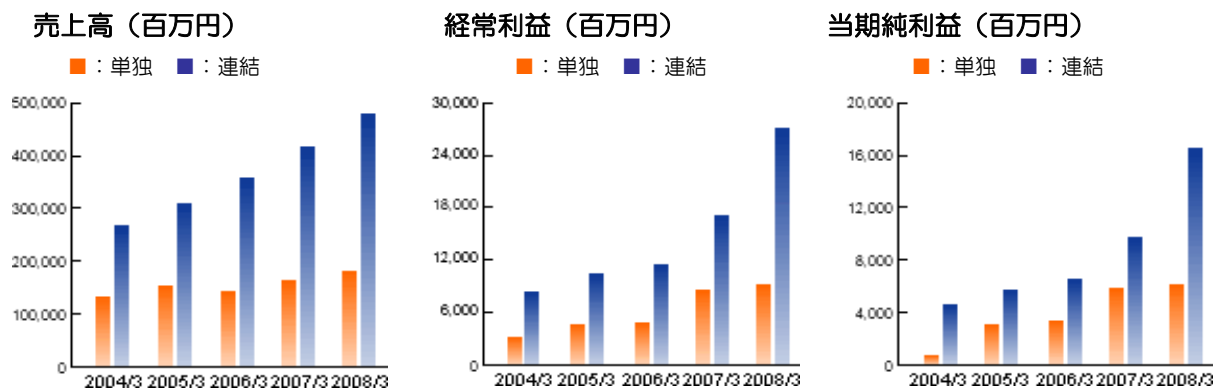
水使用量 (年間)

	使用量 (m ³)
水	40,718

会社概要

商号	テイ・エス テック株式会社 (英文名：TS TECH CO.,LTD.)
設立	1960年12月5日
本社	〒351-0012 埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号
資本金	4,700百万円
売上高	単独181,188百万円 連結479,157百万円
主な事業内容	四輪車用シート、四輪車内装品、二輪車用シート、 二輪車部品・用品の製造販売
従業員数	単独1,520名 連結13,164名(平成20年3月31日現在)
主な取引先	本田技研工業(株)、(株)本田技術研究所、(株)ホンダトレーディング、 (株)ホンダアクセス、スズキ(株)、ヤマハ発動機(株)、川崎重工業(株)、 富士重工業(株)、いすゞ自動車(株)

業績



後記

この度、当社初となる環境取組実績報告書2008を発行することができました。今回発行致しました実績報告書では、国内実績と海外子会社の一部を掲載致しましたが、海外全子会社の実績データが掲載できるよう現在準備を進めており、次号には、テイ・エス テックの国内外を通じた包括的な環境実績を報告させていただく予定です。このような一連の情報発信を通じてより多くの方に当社の環境に対する考え方や取組みを知っていただければ幸いです。

2008年9月29日

テイ・エス テック株式会社
管理本部 環境マネジメント推進室
編集スタッフ一同